

久留米工大次代の車造り

久留米工業大（福岡県久留米市）は、人の言葉を理解して動く自動車など新時代の乗り物を考える「インテリジェント・モビリティ研究所」を11月に開設する。これまで自動車の生産拠点の側面が強かった九州だが、ダイハツ工業（大阪）が8月にエンジン開発拠点を久留米市に開設するなど、九州で加速する「頭脳拠点化」の動きに対応する。

三菱自動車で空力デザイン開発を担当した東大輔教授（42）が所長を務める。他のメーカーでエンジンやサスペンションの開

11月に研究所開設

発に当たってきた教員も参加し「現場を知っているスタッフが多いのが強み」（東教授）という。

若者の「自動車離れ」が指摘される中、走る魅力と環境への配慮を両立させたスポーツカーの研究や、環境負荷を減らしたエンジン開発などを目指す。キャンパス内の実験棟に拠点を設け、共同研究する企業の技術者が常駐できる部屋も設ける。同大にある空気抵抗や揚力を計測する小型風洞などの設備を使

い、研究を進める。

また、自動車に関する技術を使



大学にある風洞で作業する東大輔教授。インテリジェント・モビリティ研究所ではこれらの施設を活用し、新しい車の未来像を模索する

福岡県久留米市

農業や福祉にも生かし、人の声で指示を受けて動く車いすなどの開発も目指すという。

久留米工大は昨年8月、ダイハツと車のエンジンなどに関する研究提携を結んだ。トヨタ自動車九州（福岡県宮若市）も協力団体となっており、東教授は「北部九州の自動車産業が設計・開発という次のステップに入っていく中、軸になる研究所になりたい」と話している。

「北部九州で開発の軸に」

（中野剛史）